教材研究ノート№2-A-21

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・集合数(4人)と順序数(4番目)の違いを理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・操作や体験を通して，位置やまとまりを表す学習をしている。

○共同追究でのゆさぶり

・順序数と集合数の組み合わされた問題を考える経験は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・●やテープ図，数直線で，位置や量を表したりよんだりする学習をしている。

≪学習問題≫

13人が　1れつに　ならんで　います。

けんたさんの　まえには　5人　います。

けんたさんの　うしろには　なん人　い

ますか。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫



②見通し: 7人なのか8人なのかよく分からない。

→図をかいて，けんたさんの場所が分かれば確かめられる。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題:図をかいて，けんたさんの後ろに何人いるか，考え方を説明しよう。

③個人追究:図をかいて，けんたさんに印をつけて確かめる。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「みんなの図で，同じ考えをしているところはどこだろう？」

→「けんたさんを6番目にしている。」

　「前の人にも後ろの人にも，けんたさんを入れていない。」

④共同追究後半（思考を深める）

「どうして13－5をして8人としてはいけないのだろう？」

→「13－5だと，後ろの人の中にけんたさんが入ってしまう。」

「けんたさんは6番目だから、後ろの人数はけんたさんまでとって，13－6で7人になる。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・図をかくと，けんたさんの場所がはっきり分かる。

・何番目と何人が違うので，図をかいて考えたり確かめたりすると分かりやすい。

⑥定着･活用問題

紅白ぼうしが　14こ　ならんで　かけて　あります。たつやさんは「ぼくのぼうしは、右から７ばん目だから

左からも７ばん目だよ」といいました。

たつやさんの　説明のまちがいを教えてく

ださい。

MCj02353790000[1]

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・課題把握では，基準になるものをはっきりさせ，図をかいて予想した答えを確かめることで，順序数の重なりの部分に気付けるようにする。

・式に表すことよりも，答えを予想したり，図にかいて位置関係を明かにしたりすることを重視し，集合数と順序数の関わりへの理解を深めたい。

【板書計画】